

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第6回 廃棄体放射能評価分科会 (F10SC) 議事録

1. 日時 2006年2月28日 (火) 13時30分～16時00分
2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - (出席委員) 川上 (主査), 松村 (副主査), 傳田 (幹事), 池戸, 市川, 坂下, 西谷, 古谷, 本山, 森本, 山崎 (11名)
 - (欠席委員) 竹下, 樋口 (2名)
 - (常時参加者) 尾崎, 吉澤 (2名)
 - (発言希望者) 阿部 (1名)
 - (傍聴者) 北村, 榊原, 下宮, 宿谷 (4名)
 - (事務局) 厚 (議事5(3)まで)
4. 配布資料
 - F10SC6-1 第5回廃棄体放射能評価分科会議事録 (案)
 - F10SC6-2 標準委員会の活動概況
 - F10SC6-3 スケーリングファクタ及び平均放射能濃度の継続的な使用についての学会標準案について
 - F10SC6-4 「放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能決定方法に関する基本手順:2006 (案)」に対するコメントについて
 - F10SC6-5 「放射性廃棄物の放射能濃度決定方法—原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能決定方法に関する基本手順:2006 (案) Rev. 1」

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局から11名の委員の出席があり、決議に必要な委員数（9名以上）を満足している旨の報告があった。また、阿部 昌義 氏（標準担当委員／(財)放射線計測協会）より発言希望者として、北村 高一 氏、榊原 哲朗 氏（日本原子力研究開発機構）、下宮 修 氏（石川島播磨重工業（株））及び宿谷 弘行 氏（(株) テプコシステムズ）より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されており、主査がこれを了承している旨、紹介された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録は、承認された。(F10SC6-1)

(3) 標準委員会の活動概況

事務局より、F10SC6-2 に沿って標準委員会等の活動状況のうち下記事項について説明があった。

- ・専門部会への分科会報告の「課題事項」の取り扱い
- ・標準の転載許諾に関する事項
- ・分科会廃止時の措置
- ・標準の発行段階での原子力学会標準委員会セッション並びに講習会の実施について

(4) スケーリングファクタ等の継続について（標準案の検討）

F10SC6-3 に沿って、原子力学会標準案のうち、スケーリングファクタの継続的な使用についての説明があった。本資料は、第5回分科会資料（F10SC5-4）の標準本体 6. 及び解説Ⅶ. 6. に該当する。

本学会標準案に対するコメント等あれば、2006年3月10日（金）までに傳田幹事宛てに連絡することとし、次回分科会にてコメントの是非等について議論を行なうこととなった。

主なコメント等は次のとおり。

- ・ケース4の「原子炉内の全てのステンレス鋼を低Co化」の全ての意味は何か？
- ・BWRの極端なケースとして原子炉内の全てのステンレス鋼を低コバルト化した評価を行っており、将来的にあり得ることを意味し、通常の予防保全のような交換はここまで行かない。
- ・原子炉構成材料の交換の評価において、実際に原子力発電所で実施されているシュラウド交換やPLRの交換は、ケース4に該当するののか。
- ・本評価では、核種評価への影響を考慮し、接水面積を指標として示しており、シュラウドやPLRの接水面積は数%程度なので、本評価における極端なケース（ケース4）

と比べると、交換量はかなり少ないので、影響は小さい。

- ・資料中に一部誤記があったため、これを修正することとなった。(P. 5, 1 行目：ステライト鋼→ステンレス鋼, P. 5, 4 行目：「燃料被覆管の」を削除)

(5) 分科会委員より学会標準案に寄せられたコメントについて

F10SC6-4 に沿って、第 5 回分科会資料 (F10SC5-4) に対して各委員から指摘のあったコメント及びコメント回答案についての説明があった。本コメント回答案について、再度、コメント等あれば、2006 年 3 月 10 日 (金) までに傳田幹事宛てに連絡することとなった。

主なコメント等は次のとおり。

- ・「放射能」の定義は、使用する目的及び状況等で異なる場合もあるので、放射能濃度及び放射能量等の表現は、今後も適宜留意しておく必要がある。(P. 1(*1))
- ・定義のうち、TRU 核種については、本標準で定義する意義は特になくことから、学会標準案からは削除することとなった。(P. 2(*5))
- ・平均放射能濃度法の算出方法については、標準であることを考慮して対数平均で算出することも考えられるが、現状、評価の対象としている条件等を考えた場合、算術平均以外を適用する状況は考えられないことから、学会標準では算術平均のみの記載とし、将来、対数平均を適用する必要性が生じた段階で、適宜、見直すこととなった。(P. 8(*3))
- ・スケーリングファクタ及び平均放射能濃度の継続的な使用のうち、「放射化学分析等により確認する方法」と「影響因子を確認する方法」の適用時の関係については、F10SC6-3 の内容を勘案すれば基本的に「又は」で問題ないと考えられる。但し、本件の扱いについては十分な配慮が必要であることから、F10SC6-3 を踏まえた上で修正した文案、及び F10SC6-3 へのコメント等を勘案した上で、再度調整することとなった。(P. 22(*3))
- ・⁹⁹Tc の移行についての表現が一部適切でない(移行と廃棄物への移行が混在しており、まだ、完全にはコメントが反映されていない) ことから、表現の見直しを行うこととなった。(P. 33(*4))

(6) 学会標準案について

F10SC6-5 に沿って、原子力学会標準案の内容について説明があった。本資料は、第 5 回分科会資料 (F10SC5-4) に F10SC6-3 の内容を追記したものであり、次回分科会時には、F10SC6-4 のコメント回答案を反映した上で改定する予定とのことである。

本資料については、基本的には F10SC6-3 及び F10SC6-4 の内容と重複するものの、両資料を合わせたことで、全体を通して不整合等が生じている可能性もあることから、各委員にて内容確認し、コメント等があれば F10SC6-3 及び F10SC6-4 へのコメントとあわ

せ, 2006年3月10日(金)までに傳田幹事宛てに連絡することとなった。

6. その他

次回分科会を2006年4月14日(金) 13:30～に実施予定。

以 上